

西小だより



学校の教育目標:よく考え 仲間とともに やりぬく子 合い言葉 ” Yes, we can. ”

「自分の弱さ」と向き合うこと

校長 岩崎 千宏

5月は、家庭訪問、PTA資源回収、そして昨日の緊急時帰宅訓練等、保護者の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。それぞれの活動の中で、お気づきになられたことや、改善した方がよいと思われることがございましたら、学級担任を通じてお知らせいただけますと幸いです。

さて、早いもので新年度がスタートして2ヶ月が過ぎました。5月末までで36日の授業日がありましたが、このうち欠席0の日が9日間。99%を上回る出席率は、西小の誇りです。これまでに子ども達の登下校を支えていただいた地域・保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

6月は「教育相談週間」を位置づけています。表面的には元気に生活している子であっても、悩みや苦しみを抱えているお子さんは少なくありません。生活アンケートやお子様との懇談を通じて、そんな思いを共有し、問題の解決や改善に向けて保護者の皆様と共に歩んでいきたいと考えています。

とりわけ「自分はいい子でなくてはいけない。」「自分の弱さや苦手なことを表に出してはいけない。」という思いが強いと、自分の弱さをさらけ出すことができず、虚勢を張ったり、無力感に苦しんだりすることにつながります。逆に、自己肯定感が高い子は、ありのままの自分をさらけ出すことができるので、弱さを認めた上で向き合うことができるのです。「ありのままの自分」が表出でき、その姿を互いに認め合える集団をめざしていきたいと考えます。

保護者や地域の皆様も、この機会に気になる姿や心配なことがあれば、学校に情報をお寄せいただくと幸いです。



ドロシー・ロー・ノルトの著書『子どもが育つ魔法の言葉』の中には、『子は親の鏡』という詩が記されており、その中にこのような一節があります。

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう
 励ましてあげれば、子どもは、自信をもつようになる
 広い心で接すれば、キレる子にはならない
 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ
 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ
 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる



学校でも、家庭でも、時として子どものために叱らなければならない場面はあります。しかし、信頼を寄せている周囲の大人に子ども達は誉めてもらうことで「もっとがんばってみよう」「弱い自分に立ち向かおう」という気持ちになります。

私たち教職員も、子ども達のよさを伸ばし、引き出し、鍛えていくことで自らに「自信や誇り」がもてる子をめざします。引き続き、お力添えをいただきますようお願いいたします。